

令和7年度 よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業
「特色ある道徳教育支援事業」
研究指定校の取組



【特色ある道徳教育支援事業】

「特色ある道徳教育支援事業」は、研究校を指定（2年間）して道徳教育の内容の重点化を図った研究を全教育活動において進めるものです。その中において、道徳教育推進教師を中心とした校内体制の充実や、道徳科における「考え、議論する道徳」の実践に向けた指導方法の工夫改善、児童生徒の感性に訴える魅力的な道徳教育用教材の開発と活用など、創意工夫を生かした特色ある道徳教育を推進するための実践研究を行います。

令和7年度は、次の2校で実践を行いました。

- ・大田原市立薄葉小学校（2年目）
- ・下野市立南河内小中学校（1年目）

このリーフレットでは、本事業に協力いただいた各学校での取組や成果・課題等について紹介しています。

各学校における道徳教育や道徳科の授業のより一層の充実に向け、実践校での事例を参考にいただければと思います。

*本リーフレットでは、「特別の教科 道徳」を「道徳科」と表記します。

令和8（2026）年3月
栃木県教育委員会

◇学校教育目標

学習する子ども 思いやりのある子ども たくましい子ども

◇学校の道徳教育の重点目標

豊かな心を持ち、自ら考え、自他ともによりよく生きようとする児童を育てる。

- ・ 自他ともに尊重する思いやりの心を育てる。
- ・ 善悪を見極め、進んでよいことを実践する態度を育てる。
- ・ 目標に向かって最後までやり抜こうとする態度を育てる。

<研究の実際>

◇研究を始める前の道徳教育及び道徳科授業の現状と課題等

- ・ 児童は、友達と話し合うことは楽しく、考えが深まると感じているが、自分の言動に自信をもてず、意見交換に苦手意識がある。教師主導型授業から脱却し、児童が主体的に学び、対話的で深まりのある授業への転換が必要だと感じている教職員が多い。
- ・ 本校は、家庭や地域が大変協力的な環境にある。その強みを生かして、今後、家庭や地域とともに、児童が豊かな心を育み、自己のよりよい生き方について考えを深めるような教育活動を推進していく。

◇研究の視点・研究課題等

【視点1】

学校の教育課題を踏まえた道徳教育の内容の重点化

- ・ 伝え合う力、関わる力を育む
- ・ 共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育て、集団や社会の一員としての自覚と責任を育む

【視点2】

道徳科の指導の創意工夫

- ・ 対話を軸にした授業展開の工夫
- ・ 児童の実態の把握や道徳科における評価を生かした指導の改善

【視点3】

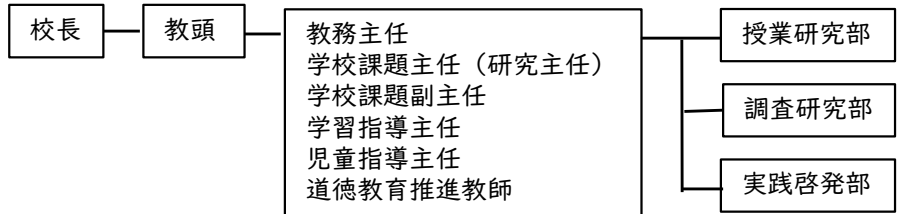
指導体制や異校種、家庭・地域社会等との連携体制の充実

- ・ 外部講師派遣による道徳教育研修の充実
- ・ 家庭（保護者）や地域社会との連携による特色ある道徳教育の在り方

◇組織体制

【関係諸機関】

- ・ 文部科学省
- ・ 栃木県教育委員会
- ・ 大田原市教育委員会
- ・ 野崎中学校小中一貫教育ののさき学園「道徳教育部会」
- ・ 外部講師等



◇主な研究の経過

- 4月 授業に関する児童アンケート実施
学校課題研修① 学校課題概要、各種部会結成、道徳授業に関する研修
- 5月 学校課題研修② 各部会における年間計画共有
- 6月 学校課題研修③ 外部講師による講話 聖徳大学名誉教授 吉本恒幸 先生
学校課題研修④ 学習指導案検討会
- 7月 道徳教育ファミリーデーの実施
学校課題研修⑤ 学校運営協議会での授業公開、授業研究会
学校課題研修⑥ 外部講師による講話 宇都宮大学教職大学院教授 和井内良樹 先生
- 8月 学校課題研修⑦ 学習指導案検討会
- 9月 ののさき学園道徳教育部での協働授業づくり、授業参観、授業研究会
学校課題研修⑧ プレ授業、授業研究会、外部講師による指導助言
学校課題研修⑨ 学習指導案検討会
- 11月 道徳教育研究発表会
- 12月 道徳教育ファミリーデーの実施
- 1月 児童アンケート実施（変容分析）、研究のまとめ

「ののさき学園」
野崎中学校、石上小学校、薄葉小学校
の1中2小学校で進める小中一貫教育

<効果的だった取組等>

【視点1】学校の教育課題を踏まえた道徳教育の内容の重点化

(1) 伝え合う力、関わる力を育む道徳教育

○ 対話活動の充実

様々な学習活動において、児童と児童、児童と教師の対話を大切にしてきた。対話活動の充実を軸に、児童が主体的に学びを深めていく教育活動を重点的に推進した。

○ 「Nトーク」の実施

テーマに沿って児童がお互いの考えを伝え合う「Nトーク」の時間を朝の会に位置付け、対話への抵抗感をなくすための活動を取り入れた。



1	今日の朝ごはん
2	ペアとして聞いてみたい話のなかで、
3	喜びに行くから海が山が
4	読んだ本の内容
5	自分が知っていること
6	好きな食べ物
7	好きな季節
8	聞いてみたい話は
9	大げさな元気の過ごし方
10	空気が読めるから
11	輪流が読んだら
12	薄葉小学校について
...	...
99	行ったことのある一番遠い場所
100	薄葉小学校、どちらに注目したいか



先生方の声
意見を伝える楽しさを味わったり、相手の話を理解したりしようとする姿が見られるようになった。

(2) 共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育て、集団や社会の一員としての自覚と責任を育む道徳教育

○ アンケートを生かした「ののさき学園道徳教育全体計画」の見直し

ののさき学園では、以前より、道徳部会を立ち上げ、授業づくりの研究を行ってきた。この強みを生かし、共に研究を進めることで、更なる授業力の向上を目指してきた。

今年度は、ののさき学園道徳教育全体計画を見直し、9年間の系統性を高めるよう努めた。保護者や教師へのアンケート結果により、今年度からは、A「個性の伸長」、B「親切、思いやり」、C「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」、D「生命の尊さ」を重点項目として設定し、道徳科の授業に取り組んできた。



保護者アンケート

小・中学校それぞれ各学年の内容項目を抽出し、それぞれの視点から、児童に身に付けさせたい内容を選択、回答するアンケートを実施した。

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
重点項目	個性の伸長	個性の伸長	個性の伸長	個性の伸長	個性の伸長	個性の伸長
学習目標	自分の考えを伝え、相手の話を聴くことができるようになる。	自分の考えを伝え、相手の話を聴くことができるようになる。	自分の考えを伝え、相手の話を聴くことができるようになる。	自分の考えを伝え、相手の話を聴くことができるようになる。	自分の考えを伝え、相手の話を聴くことができるようになる。	自分の考えを伝え、相手の話を聴くことができるようになる。
学習活動	朝の会、Nトーク、ペアワーク、グループワーク	朝の会、Nトーク、ペアワーク、グループワーク	朝の会、Nトーク、ペアワーク、グループワーク	朝の会、Nトーク、ペアワーク、グループワーク	朝の会、Nトーク、ペアワーク、グループワーク	朝の会、Nトーク、ペアワーク、グループワーク

ののさき学園道徳教育全体計画

○ 異校種・異学年交流、地域との連携

本校のある野崎地区は教育活動に大変熱心であり、協力的な地域であるという強みがある。より地域への親しみを感じたり、地域の方の思いを理解したりする機会を増やすために、児童が地域行事へ参加することや、学校行事に地域の方を招く取組を進めてきた。校内では、縦割り班活動などの異学年交流を定期的実施し、他者理解の力を高めたり、よりよい関係を築くために自分はどう行動するか判断したりする場としてきた。



なかよし班活動 (異学年交流)



あいさつ運動 (小中合同活動)



交通安全の見守り (学校ボランティアとの関わり)



野崎地区文化祭への参加 (地域交流)

【視点2】道徳科の指導の創意工夫

(1) 対話を軸にした授業展開の工夫

○ 対話をつなぐ学習形態の工夫

3人グループで話し合う「トリオ学習」を主に取り入れているが、トリオだけにこだわるのではなく、隣同士で話し合う「ペア学習」、様々な人数構成の「グループ学習」等、児童の実態や各学年の発達の段階に応じた様々な話し合いの学習形態を取り入れている。その結果、児童同士が本音を伝え合い、じっくり考える姿や、友達の考えと自分の考えの似ている点や違う点に気付き、受け入れる姿が見られるようになった。



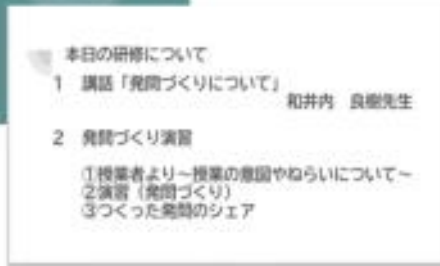
トリオ学習による意見交換



グループ学習

○ 多様な考えを生む発問や問い返しの工夫

対話的で深まりのある授業づくりのためには、発問や問い返しが必要であるが、具体的にどのような発問をしたらよいのか、悩んでいる教職員が多かった。そこで、発問づくりをテーマにワークショップを実施した。多様な考えを引き出す発問構成で、様々な考えに触れながら納得解や最適解を見童が見つめていけるよう研究を進めてきた。



発問	学習活動に応じた発問	発問の意図やねらいなど
発問	「ゲームよ、どうやって勝つか?」 「まさかそんな簡単なゲームじゃないよ!」 「ゲームよ、どうやって勝つか?」 「まさかそんな簡単なゲームじゃないよ!」 「ゲームよ、どうやって勝つか?」 「まさかそんな簡単なゲームじゃないよ!」	・「まさか」という言葉に注目し、相手の考えを聞き出す。 ・「ゲームよ」という言葉に注目し、相手の考えを聞き出す。
発問	「これってどうやって勝つか?」 「まさかそんな簡単なゲームじゃないよ!」 「ゲームよ、どうやって勝つか?」 「まさかそんな簡単なゲームじゃないよ!」	・「まさか」という言葉に注目し、相手の考えを聞き出す。 ・「ゲームよ」という言葉に注目し、相手の考えを聞き出す。

発問	学習活動に応じた発問	発問の意図やねらいなど
発問	「まさかそんな簡単なゲームじゃないよ!」 「ゲームよ、どうやって勝つか?」 「まさかそんな簡単なゲームじゃないよ!」 「ゲームよ、どうやって勝つか?」	・「まさか」という言葉に注目し、相手の考えを聞き出す。 ・「ゲームよ」という言葉に注目し、相手の考えを聞き出す。
発問	「これってどうやって勝つか?」 「まさかそんな簡単なゲームじゃないよ!」 「ゲームよ、どうやって勝つか?」 「まさかそんな簡単なゲームじゃないよ!」	・「まさか」という言葉に注目し、相手の考えを聞き出す。 ・「ゲームよ」という言葉に注目し、相手の考えを聞き出す。

○ 対話や思考をつなぐ板書の工夫

1時間の学習の流れが一目で分かるような構造的な板書を研究してきた。児童の発言を丁寧に取り上げ、整理し、思考の可視化を図った板書を工夫することで、児童が対話をつなぎ、思考を深めていく姿が見られた。



第2学年
公平、公正、社会正義
「三びきはともだち」
(日本文教出版)



第6学年
相互理解、寛容
「ブランコ乗りとピエロ」
(日本文教出版)



道徳教育研究発表会(11月21日)の公開授業での板書

○ 「パッケージ型ユニット道徳」の分析シート

研究1年目は、「いじめに関するユニット道徳」を行い、その効果を検証するために、テキストマイニング・ワードクラウドを活用して全学級の「いじめに関するユニット道徳」についての分析を行った。



ユニット学習前

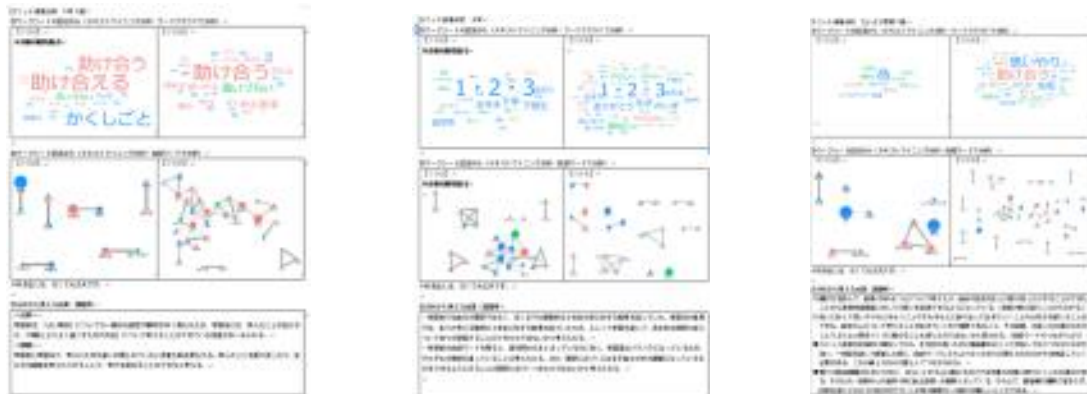
- ・ いじめに対して「くだらない」、「つまらない」などマイナスのイメージをもっている児童が多いことが分かった。
- ・ 「いじめは悪いことだ」と捉えていても、多面的・多角的に考えたり、自分の事として捉えたりしている様子は、あまり見られなかった。

ユニット学習後

- ・ 振り返りの記述に、マイナスなイメージだけでなく、「相手」、「判断」、「守る」、「思いやり」などの言葉が見られるようになり、いじめが起きてもそれを解決したいと考える児童や、相手のことを考えていじめをなくしたいと考える児童が増えてきたことが分かった。
- ・ 共起ワード分析では、言葉のつながりが密になったことが分かる。多様な視点で思考したことがうかがえる。
- ・ 話し合いで友達のことを聞くことにより、物事を多面的・多角的に考えられている様子が見られるようになった。

いじめに関するユニット道徳の分析シートと分析結果

研究2年目は、全教材を組み直し全学年でユニット道徳を実施した。実施後は、テキストマイニング分析シートでの検証を全学級で行い、効果や課題を分析した。



「みんななかよく」ユニット

「〇年生の自分」ユニット

「つながる命」ユニット

ユニットを組むことで、児童だけでなく教職員にも様々なところでよい効果があった。今後も、児童の変容を確認し、効果を検証しながら継続していきたい。

「パッケージ型ユニット道徳」について教職員の感想

- ・ 様々な内容項目を関連させて考えたり、前時の道徳の内容を思い出したりしながら考える姿が見られた。
- ・ 関連した授業内容を学習することで、児童や教師にとって今月のテーマを意識することができ、分かりやすと感じた。
- ・ 一つのテーマについて様々な角度から話し合えるので、児童それぞれの考えが深まった。
- ・ 他者の視点を取り入れながら、自分の事として考えられるようになった。
- ・ ユニット道徳という考え方は今後の道徳教育に必要だと思う。それを学べたのがよかった。
- ・ すぐに効果があったかどうかは分からないので、今後も継続していきたい。

【視点3】指導体制や異校種、家庭・地域社会等との連携体制の充実

(1) 外部講師派遣による道徳教育研修の充実

現職教育に宇都宮大学教職大学院教授の和井内良樹先生をお招きし、講話、ワークショップ、授業研究会の指導助言など、2年間の研究に携わっていただいた。また、聖徳大学名誉教授（日本道徳科教育学会会長）の吉本恒幸先生には、ののさき学園道徳教育研修会において、「道徳科の授業づくり」について講話をいただいた。それらの学びを生かしながら、小・中学校の教職員による学習指導案検討会や授業研究会を継続してきた。



ののさき学園研修会での講話



ワークショップ



公開研究発表会での講話



研究授業（石上小）



研究授業（薄葉小）



研究授業（野崎中）

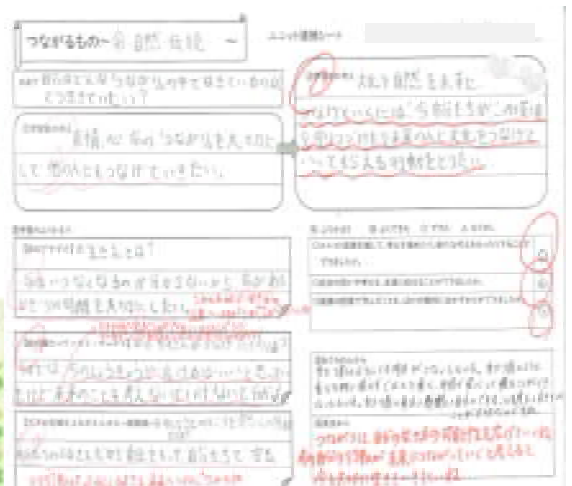
(2) 家庭（保護者）や地域社会との連携による特色ある道徳教育の在り方

○ 家庭と連携した道徳教育

7月と12月に「ファミリーデー」を実施し、親子で道徳科の授業について考える機会を設定した。7月のファミリーデーの際に、道徳科の授業ではどんな学習をしているのか、家庭ではどんな視点で話し合えばよいのかが分かるように、参考資料を配布した。ファミリーデー実施後には、家庭で話し合ったことや保護者の方の感想を「ユニット道徳ふりかえりシート」に記入していただいた。児童と保護者が授業の延長線上で、共に考える機会とすることができた。



「ファミリーデー」保護者配布資料



ユニット道徳ふりかえりシート

保護者の声

- ・ いろいろな人とのつながりの中で、楽しく生活できるようにするために、思いやりの気持ちを大切にしていってほしいです。
- ・ 道徳の授業を通して考えが大きく変わっているのが分かり、多くのことを吸収しているのだろうと思いました。

○ 地域と連携した道徳教育

地域の方をゲストティーチャーに招き、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を主題とした授業を実施した。学校運営協議会の委員の方々に授業を参観いただき、授業実施後には、道徳科の授業について話し合った。



第5学年「和太鼓調べ」



第4学年「お父さんのじまん」



第1学年「にっぽんのおかし」



学校運営協議会の熟議

学校運営協議会の熟議

地域で育てる子供たち ～子供たちの心を育てるために地域ができること～

- ・ 一つの授業をじっくり参観して、大人の自分もいろいろと考えさせられた。
- ・ ゲストティーチャーとして話をし、自分たちの地域の良さを再確認することができた。
- ・ 教師の問いかけに活発に意見が出ていた。他の子の意見を否定せず、自分の考えを伝えていた。

○ 学校ホームページ、学校だよりでの啓発

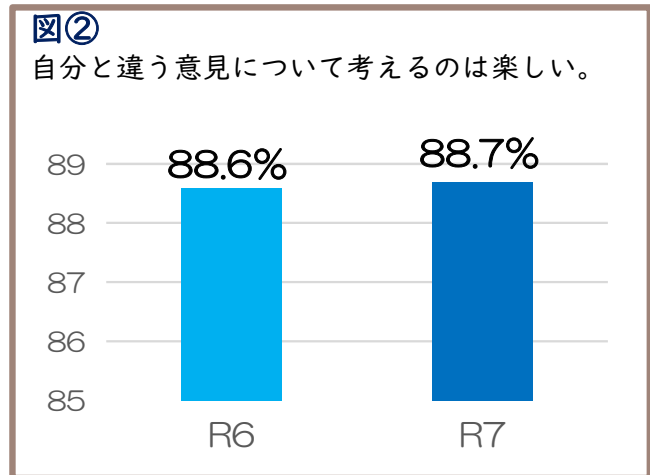
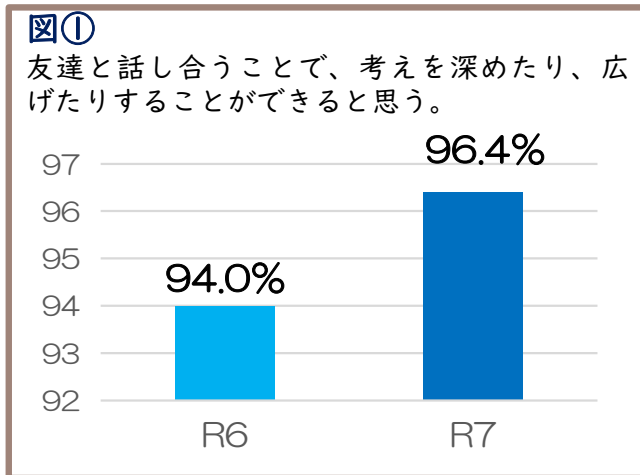
学校の取組を紹介し、保護者や地域の方々へ周知・啓発を図っている。

学校だより「もみの木」

学校ホームページ

<成果及び課題>

○成果



【児童の姿】

- ・ 全国学力・学習状況調査の質問「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」の項目で、9割の児童が肯定的な回答をしている。
- ・ 校内で実施したアンケートにおいて、「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりできる」という項目において、9割の肯定的回答が見られた。(図①)
- ・ トリオ学習等の様々な対話を軸とした活動により、普段発言を苦手としている児童も発言しやすい環境になった。
- ・ 自分と違う意見について考えることを楽しいと感じたり、友達の考えを認めることのよさに気付いたりする児童が増えた。(図②)
- ・ 校内全体の雰囲気が落ち着いた。

【教職員】

- ・ 教職員の道徳教育に対する意識が高まり、校内のみでなく、ののさき学園としても道徳科の授業に対する意欲が向上している。
- ・ 授業の準備や振り返りをしている教職員が増えた。板書の仕方や、基本発問から中心発問へのつなぎ方、中心発問での話合いをどう自分の事として捉えるか等、意見を交わしている姿が見られる。

【家庭・地域】

- ・ 家庭で道徳教育のテーマをもとに話し合う機会ができた。家庭において、親子がじっくり考える時間となった。
- ・ 学校運営協議会での道徳科授業公開、熟議では、道徳教育を地域とともに進めることの意義、道徳科の授業について共有できた。

○課題と今後に向けて

【児童の姿】

- ・ 対話によって考えが深まることを実感したり、楽しいと感じたりはしているが、一方で話し合ったことを伝えることについては、まだ苦手意識が残る児童がいることも分かった。以前は、決まった人が発表するのを聞いているだけで済んだが、自分の考えを伝え合う機会が増えたことで、難しさを感じているようだ。
- ・ 児童の発言しやすい環境づくりに取り組んできたが、対話活動を得意、楽しいと答える児童が増えた反面、まだ苦手意識を拭えていない児童も見られる。今後も様々な場面で対話活動を取り入れ、児童が対話を楽しめるような工夫をしていく。

【教職員】

- ・ 教職員の意識調査の回答では、考えを深める発問の設定について、「できる」が14.3%、「少しできる」が85.7%となった。少しずつできるようにはなっているものの、内容項目や教材によっては、まだ自信がもてない教職員も見られる。
また、異動等により、研究の年数に違いがあるためか、教職員全員が同じように授業を展開することが難しいというのも事実である。お互いの授業を見合ったり、相談し合ったりしてこれからも学校全体として授業力の向上を目指していく。
- ・ トリオ学習での対話と自由な児童の発言やつぶやきのつなぎ方を多くの実践例から学んだり、日々の授業実践から検証したりしながら、ファシリテート力の向上に努めていく。
- ・ 「ユニット道徳」を教育課程に位置付け、効果的な実践に向け、各ユニットのねらいや構成を定期的に見直し、改善していく。
併せて、各ユニットごとに児童の変容や学びの深まりを分析し、内容や実践方法を工夫改善していく。

【家庭・地域】

- ・ 様々な人々との出会いの場、多くの経験の機会を活用し、道徳科の授業で学んだことや、自分で判断したことを、日常生活と結び付ける場を今後も意図的に作っていく。
- ・ 児童がよりよく生きるための基盤となる道徳性を育む道徳教育の推進を図るために、保護者や地域とともに道徳教育を深めていけるよう、今後も働きかけていきたい。



◇学校教育目標

ふるさとを愛し 夢に向かって高め合える子を育む
・すすんで学ぼう ・心をみがこう ・体をきたえよう

◇学校の道徳教育の重点目標

- ・物事を自律的に判断し、責任をもって行動しようとする態度を育てる。
- ・誰とでも仲良くし、互いを助け合う心情を育てる。
- ・郷土の伝統と文化を大切にし、新たな文化を創造していこうとする心情を育てる。
- ・自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。

<研究の実際>

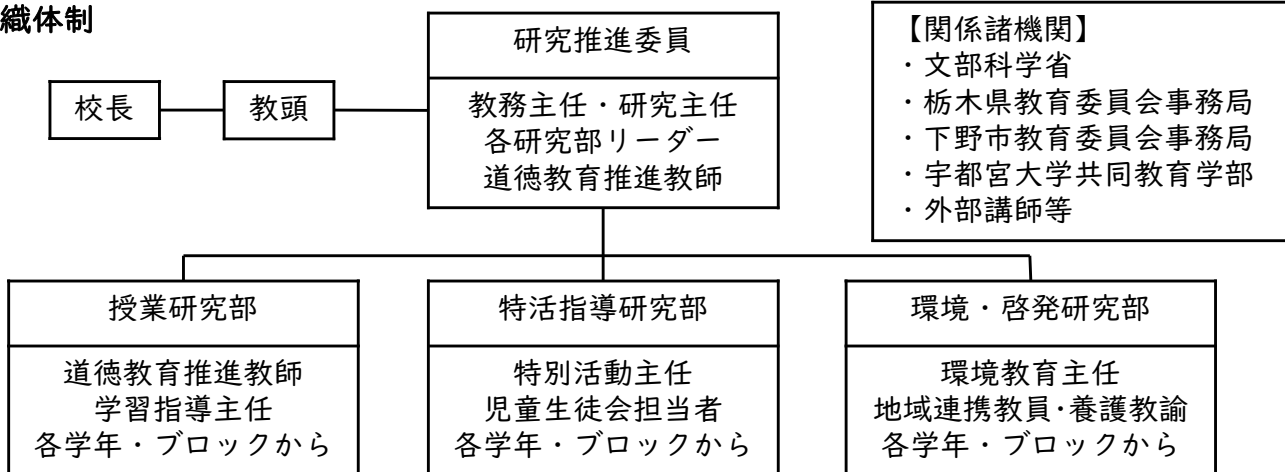
◇ 研究を始める前の道徳教育及び道徳科の授業の現状と課題等

- ・児童生徒の実態として、正しい判断力や実践力に課題があると考える。また、自己肯定感や自己有用感が低い傾向も見られる。そのため、広い意味での「自律心」を共通テーマとし、「自己を客観的に見つめる力」と「よりよい判断や行動をしようとする態度」を育む教育活動を教職員全体で進めていきたいと考える。
- ・現状と課題を踏まえ、「授業研究部」、「特活指導研究部」、「環境・啓発研究部」を組織し、義務教育学校としての本校の特色を生かした道徳教育の研究を進めていく。

◇ 研究の視点・研究課題等

- 【視点1】学校の教育課題を踏まえた道徳教育の内容の重点化
 - ・「自己を見つめる力」と「よりよい生き方を求め続ける態度」を育む道徳教育の実践
 - ・全教育活動を通じた自律心の育成
 - ・生命を尊重する心や自立心を育む道徳教育
- 【視点2】道徳科の指導の創意工夫
 - ・体験活動及び特別活動をはじめとした各教科等と道徳科との関連的指導の工夫
 - ・9年間を見通した道徳科の授業の工夫
 - ・対話により思考を深めるための工夫
- 【視点3】指導体制や連携体制の充実
 - ・道徳教育推進教師を中心とした指導体制や校内研修及び校内環境の工夫
 - ・義務教育学校の特色を生かした道徳教育の充実
 - ・外部講師派遣による道徳教育研修の充実

◇組織体制



◇主な研究の経過

4月	校内道徳研修（研究主題、研究課題、重点目標）
5月	研究計画作成
6月	校内道徳研修（各研究部における研究の進め方の確認）
8月	外部講師による講話及び演習（別葉の効果的な活用） 外部講師による模擬授業及び講話（トリオ学習と授業づくり）
9月	外部講師による講話（実践意欲を高める道徳科の授業）
10月	児童生徒アンケート実施（実態把握・分析）
12月	外部講師による講話（研究授業1年「A善悪の判断、自律、自由と責任」、授業研究会）
2月	校内道徳研修（各研究部における方向性の確認） 校内道徳研修（研究の振り返り） 次年度の計画作成

・外部講師を4回招聘し、研究課題に沿った講話・演習・模擬授業等を実施した。発問や板書の工夫や研究授業における指導助言を受けた。

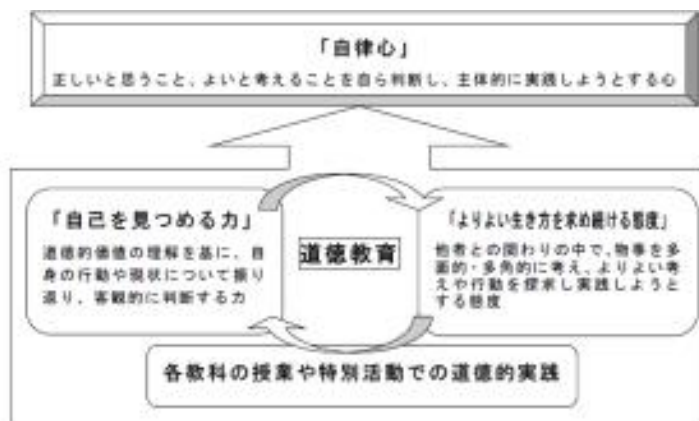
・月に1回程度、研究推進員の打合せを行い、研究の内容や進捗状況について話し合う場を設けた。

<効果的だった取組等>

【視点1】学校の教育課題を踏まえた道徳教育の内容の重点化

○「自己を見つめる力」と「よりよい生き方を求め続ける態度」を育む道徳教育

「自己を見つめる力」と「よりよい生き方を求め続ける態度」は相互に作用し合うものであり、一方を高めることによってもう一方も高まり、児童生徒がよりよく生きるための道徳性を高め育てることにつながる。さらに、そうして培われた道徳性を基に、各教科の授業や特別活動の中で児童生徒自らが意図的によりよい行動を実践することで、「自己を見つめる力」や「よりよい生き方を求め続ける態度」が更に高まっていく。こうした効果のスパイラルを実現していくことで、児童生徒が自分の意思や判断で正しく行動することのよさを実感し、更に「自律心」が育まれていくと考えた。そのため、義務教育学校である本校の特色を生かした教育活動を重点的に推進していく。



○全教育活動を通じた自律心の育成

- ・ 学級力向上プロジェクトの実施

1～9年生全クラスで、学級力向上プロジェクトを1回目11月、2回目1月に実施した。理想の学級像を確認させるとともに、事前アンケートの結果から現状と課題を分析させ、課題解決に向けて話し合わせることで、よりよい集団づくりを目指す取組を進めた。本プロジェクトの実施においては、中央委員会の児童生徒が中心となり活動を行った。



前期課程(1～6年生)の様子

後期課程(7～9年生)の様子

〈児童生徒の声〉

- ・ 学級の課題を解決するために、自分には何ができるかを考えて生活したい。
- ・ 課題解決は難しくても、そのために議論していくことは大切だと思った。

【視点2】道徳科の指導の創意工夫

○体験活動及び特別活動をはじめとした各教科等と道徳科との関連的指導の工夫

- ・ 重点的に指導する内容項目項目に絞った道徳教育全体計画別葉の見直し
- ・ 特別活動をはじめとした各教科等との関連的指導を行うため、重点的に指導する内容項目に焦点化して別葉の見直しを行った。各教科等における道徳教育を意識した授業の教材研究につなげることができた。

○9年間を見通した道徳科の授業の工夫

- ・ 系統性を明確にした指導の充実
- ・ 9年間を見通した授業を行うために、重点的に指導する内容項目のねらいを学年段階ごとに整理し、系統性を明確化した。1～9年生のねらいの系統性を検討していく中で、小・中学校間での内容項目の違いや、学年に応じて児童生徒に考えさせる内容を具体的に理解することができた。

○対話により思考を深めるための工夫

- ・ 対話カードの活用
 - ・ トリオ学習を主とした対話活動の充実
 - ・ 児童生徒の思考を深めるための発問の検討
- 本校児童生徒の実態として、表現力に課題が見られ、自分の考えををもっていても、他者との対話につなげられず、思考を深めにくい状況があった。改善を図るため、以上の取組を行った。

道徳教育全体計画別葉の作成例

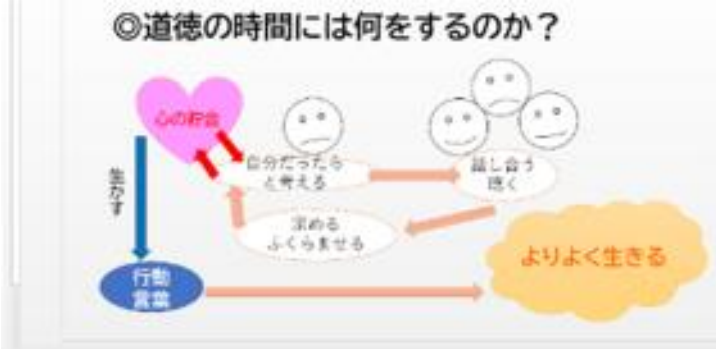
項目	4月	5月	6月	7月
道徳 ねらいと学び	●わたしの学校をよびよる、学校生活、集団生活の充実 ●きぼうの行動(友情、信頼)	●自分や仲間とていっしょに生活 ●みんなの力をあわせて生活 ●みんなの力をあわせて生活	●自分や仲間とていっしょに生活 ●みんなの力をあわせて生活 ●みんなの力をあわせて生活	●わたしの学校をよびよる、学校生活の充実 ●きぼうの行動(友情、信頼)
1年生 学級生活	●前期始業式/新任式/入学式 A 自主、自律、自由と責任	●1年生を迎える会 B 友誼、信頼 ●体育祭 A 自主、自律、自由と責任 B 友誼、信頼 *体育祭をかんばらう(5)		
2年生 学級生活			●宮下橋のしかた(5)	
3年生 学級生活				
4年生 学級生活		●芝草三組合組合 A 自主、自律、自由と責任	●全校児童 B 友誼、信頼	●秋祭りの団集 ●伝統文化の継承 国語科 土を愛する他校
5年生 学級生活	●みんなはみんな(5)		●スライム作り	●心なれを見つけたよ(5)
6年生 学級生活	●みんなはみんな(5)			

本校の重点目標に関する道徳教材におけるねらいの作成例

学年	道徳科のねらい	道徳科のねらい	道徳科のねらい
1	●わたしの学校をよびよる、学校生活の充実 ●きぼうの行動(友情、信頼)	●自分や仲間とていっしょに生活 ●みんなの力をあわせて生活 ●みんなの力をあわせて生活	●わたしの学校をよびよる、学校生活の充実 ●きぼうの行動(友情、信頼)
2	●前期始業式/新任式/入学式 A 自主、自律、自由と責任	●1年生を迎える会 B 友誼、信頼 ●体育祭 A 自主、自律、自由と責任 B 友誼、信頼 *体育祭をかんばらう(5)	
3			●宮下橋のしかた(5)
4		●芝草三組合組合 A 自主、自律、自由と責任	●全校児童 B 友誼、信頼
5	●みんなはみんな(5)		●スライム作り
6	●みんなはみんな(5)		

○道徳教育推進教師を中心とした指導体制や校内研修及び校内環境の工夫

- ・ 道徳科の授業開きの工夫改善



〈先生方の声〉

- ・ 全教職員の共通理解の下、目的意識をもって進めることができた。
- ・ 児童生徒に、道徳科の授業で学ぶことや大切にしてほしいことを伝えられた。

- ・ 「ローテーション道徳」の実践（10月～11月）

各学年で道徳科の時間を揃え、教職員一人につき一教材を担当する形で指導略案を作成し、学年の全学級において授業を実施した。学級数より1～2名多い教員配置でローテーションの体制をとったことで、相互に授業を参観し、助言し合うことができた。

〈先生方の声〉

- ・ 同じ教材での複数回の授業実践により指導の工夫改善ができた。
- ・ 発問のわずかな違いによる反応の変化などを実感できた。
- ・ 1回の教材研究で複数回授業ができ、教材研究の効率化につながった。

- ・ 校内における「道徳コーナー」の設置

廊下や階段など児童生徒の往来が多い場所に、日常生活にある「道徳的価値に関わる場面」について、問題意識を投げ掛ける内容の掲示を行った。



〈児童生徒の声〉

- ・ 私だったら、どうするかな……。
- ・ みんな、こんな風に考えてるのか、おもしろいなあ、なるほどなあ。

○義務教育学校の特色を生かした道徳教育の充実

- ・ 授業における板書のデータベース化

授業後、授業者が板書を撮影し、クラウド上に保存した。教職員間で参考にし合えるようにするとともに、授業の足跡として教室に掲示したりタブレット端末で共有したりすることで、児童生徒への授業の振り返りとしても活用した。

- ・ 前期課程と後期課程の教職員合同での研究体制

前期課程と後期課程の教職員を混合した組織編制を行うことで、9年間の発達段階を見通した道徳教育の理解を深め、系統性・連続性のある一貫した指導の充実を図った。

○外部講師派遣による道徳教育研修の充実

- ・ 宇都宮大学教職大学院 和井内 良樹 教授
模擬授業「うばわれた自由」 A 善悪の判断、自律、自由と責任
講話「道徳科におけるトリオ学習及び授業づくりについて」



〈先生方の声〉

- ・ 児童生徒の立場や気持ちになることで、トリオ学習の効果がより実感できた。
- ・ 授業の流れや板書の組み立て方が大変参考になった。
- ・ トリオ学習やペア学習をすぐに実践してみたくなった。発言や話し合いを活発にしていきたい。

- ・ 宇都宮大学共同教育学部附属小学校 佐藤綾子副校長
講話及びグループ協議

「道徳的価値の理解や判断力を高め、実践意欲につながる道徳授業」



〈先生方の声〉

- ・ ねらいに応じて発問も変わることが大変参考になった。
- ・ 道徳科の授業の様々な工夫を学ぶことができた。道徳科の授業づくりの奥深さを感じた。
- ・ 学年によって内容項目が変わることを改めて確認できた。9年間を見通す視点の大切さを実感できた。

<成果及び課題>

○成果

- ・ 道徳科授業の工夫改善について、教職員間で学び合ったり、講話を聴いたりする機会を確保したことで、道徳科授業に対する抵抗感や悩みが軽減され、授業づくりにおける選択肢が広がるなど、各教員の授業力向上につながった。
- ・ 児童生徒会中央委員の主導で「学級力向上プロジェクト」を実践していくことで、児童生徒の「学級を自分たちでよりよくしていこう」とする意識や、1年生から9年生までの「縦のつながり」への意識が高まった。
- ・ 「環境・啓発研究部」の設置した「道徳コーナー」により、児童生徒が道徳科の授業での学びの視点と日常生活とを結び付けるための手掛かりとなった。
- ・ 様々な試行錯誤や学びを通して、「義務教育学校の特性を生かし、9年間の見通しや系統性を意識した道徳教育を推進していく」という方向性が明らかとなり、全教職員が同じ方針の下で研究に取り組むことができた。

△課題

- ・ 授業研究をより一層深めていくために、学校全体として「授業改善」の軸となる視点を明確化・焦点化する必要がある。
- ・ 「特活指導研究部」において、「学級力向上プロジェクト」を基にした啓発や呼び掛け等を行っているが、児童生徒の実践意識の高まりに向けては、検討の余地がある。
- ・ 「道徳コーナー」は、試行錯誤の段階にとどまっており、明確な方向性を見出していく必要がある。
- ・ 研究の推進により、児童生徒自身が「成長できた」、「改善できた」という思いや達成感を得ることができる場面が十分確保されていない。

<今後に向けて>

- ・ 「考え、議論する」道徳科授業を実現するために、特に「発問」と「対話」を核として授業研究を進める。
- ・ 児童生徒自らが、「学級力向上プロジェクト」等で話し合った結果や見いだした課題を、実際に改善していこうとする実践意欲に結び付ける。
- ・ 学校ホームページを活用するなど、保護者や地域への情報発信や啓発を進める。
- ・ 「道徳コーナー」を学年・学校で関連や系統をもたせた内容に改善していく。また、道徳科の授業や特別活動などと関連させるなどの可能性についても検討する。
- ・ 児童生徒が自身の成長や生活・活動の改善を実感し、「自律心」の向上につながるような働き掛けや場の設定を考える。

栃木県教育委員会事務局義務教育課
〒320-8501 宇都宮市埴田 1-1-20 TEL: 028-623-3392

「教える道徳教育」ホームページ
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m03/education/gakkoukyouiku/shouchuu/doutoku.html>

